

おうちで楽しむ!  
草津れきし発見隊!!

## くさつ 草津ものしりクイズ

### 上級編3 回答解説 (答え合わせ)

読むのがおぼつかしいときは、おうちの人といっしょに読んでね。

もんだい 1	答えは③の「鳥」です。 この鳥形木製品は、狭間遺跡の古墳の周りを巡った堀（周濠）から出土しました。胴体部分の腹部の下には孔があり、そこに棒状のものを突き刺して、古墳に立てられていたと考えられています。 このような鳥の形の木製品は、草津市の他、県内では彦根市や栗東市などでも見つかっており、古墳を飾るモチーフのひとつとして使われていたとみられます。
こたえ ③	 狭間遺跡出土：鳥形木製品（左右ともに）

もんだい 2	答えは①の「ラクダ」です。 ラクダは文政4年（1821）7月にオランダ人によって、雄雌2頭のヒトコブラクダが将軍家へ献上される目的で日本に持ち込まれました。 残念ながら将軍家からは不用とされたため、しばらくの間そのまま出島で飼育されることとなりますが、文政6年（1823）に当時の通訳者に贈呈する形で、ラクダはオランダ側から日本側へ引き渡されました。その後、紆余曲折を経て、ラクダは10年以上も全国を興行し、全国津々浦々を旅しました。文政7年（1824）には江戸でも見世物興業が行われ人気を博するなど、当時の人々を大いに盛り上げました。
こたえ ①	ラクダの他にも、ゾウやヤマアラシ、ジャコウネコなどの様々な珍しい動物が江戸時代の日本にやってきたという記録が残されています。 特に、ラクダやゾウについては、「象志」（大坂等 安井嘉兵衛等）や「象のみつき（ぞうのみつき）」（中村平五撰・画）、「橐駝考（たくだこう）」（它山唐公愷稿・安西武臣寅吉校）など、様々な書籍に取り上げられています。 当時の人々にとって、海を渡ってやってきた見たこともない動物の姿は、とても興味深いものに見えたに違いないでしょう。

<p>もんだい 3</p>	<p>答えは③の「船の航路の管理」です。 芦浦観音寺は船奉行として琵琶湖の船舶およびその水運を統括していま</p>
<p>こたえ ③</p>	<p>した。 船奉行の具体的には、 ・琵琶湖の船の「船改め」を行い、その船を確認した証として極印（焼印）を押す。 ・船の数や加子（船の漕ぎ手）の数の把握。 ・運上銀（近世の租税の一種）の徴収。 などを行っていました。 琵琶湖の湖上交通に関する様々な事柄を統括していましたが、船の航路の管理は行っていませんでした。</p>

<p>もんだい 4</p>	<p>答えは①の「国：老杉神社本殿、県：紙本金地著色王会図 六曲屏風、市：福島正則禁制」です。</p>
<p>こたえ ①</p>	<p>このうち、県指定の「紙本金地著色王会図 六曲屏風」は、令和3年（2021）2月に草津市指定文化財から滋賀県指定文化財へと指定区分が変更されました。 この作品は、古代中国の皇帝が周辺諸国の使者から貢物をささげられている様子を描いており、中国を含め現存する例が少ないものであることなどが評価されました。 ちなみに②の県指定文化財「多賀大社文書」は多賀町に、③の国指定文化財「大角家住宅」は栗東市に所在しています。 ※「大角家住宅」の「角」の字は、正しくは「角」の中の縦棒が下に突き抜けた文字です。</p>

<p>もんだい 5</p>	<p>答えは③の「立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開設」と④の「JR 南草津駅の開業」です。</p>
<p>こたえ ③④</p>	<p>これにより、JR 南草津駅北部と、駅から立命館大学びわこ・くさつキャンパスに至るエリアで、都市的土地利用が拡大しました。 特に立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開学による JR 南草津駅の利用者の増加は著しく、平成23年（2011）3月には新快速電車が南草津駅に停車するようになりました。 ちなみに①の「草津市立街道情報文化センター」とは、現在の草津市立草津宿街道交流館の前身にあたり、平成4年（1992）に開業されました。 ②の「京滋バイパスの一部の供用開始」は昭和59年（1984）のことです。</p>

**【問合せ先】**

草津市歴史文化財課 〒525-8588 草津市草津三丁目 13-30

TEL : 077-561-2429 FAX : 077-561-2488 E-mail : bunkazai@city.kusatsu.lg.jp